

# 清流 ニュース

発行所  
〒192-0904  
八王子市子安町1-22-25  
清流 寺  
清流ニュース編集室  
電話(042)646-0287(代)  
FAX(042)644-1164  
http://seiryuji.jp.org/

令和6年度総祈願  
本年度教化誓願達成・学徒・教務員増加  
日序上人御廿七回忌・日序上人五ヶ年報恩ご奉公  
寺内・境内整備ご有志奉納推進 工事無事着工  
甲乙御講席主・願主増加・共連れ参詣促進 ご奉公体制再構築  
お助行御法門聴聞励行・教養会内容充実・役中後継者養成

## 六月の御総講日

- 一日 十時 御修行日
- 七日 十時 パースデー総講
- 十三日 十時 高祖御命日
- 十七日 十時 開導御命日
- 廿五日 十時 門祖御命日

於 清流 寺

- 十二日 十時 高祖御逮夜
- 十六日 十時 開導御逮夜
- 廿四日 十時 門祖御逮夜
- 三十日 十時 歡尊御命日  
晨尊御逮夜

於 羽 村 別 院

## 特別行事

十六日 十時三十分〜十四時  
特命巡教  
東京中央布教区弘通促進大会

会場 板橋・信泉寺

## 会議

- 一日 御総講後 役中会議
- 廿三日 午後一時 参事会
- 廿五日 御総講後 教区長会議

## 六月廿四日

### 当山初代住職

### 権大僧正 日序上人

### 御廿七回忌祥月ご命日

今日廿四日は、当山初代住職・権大僧正日序上人の御廿七回忌祥月ご命日です。

当日は、羽村別院に於て、門祖聖人御逮夜総講に併修して御廿七回忌ご祥月法要が営まれます。

御総講終了後、ご墓所にて一座の御回向をさせて頂いたことになっております。

権大僧正日序上人の足跡①

清流寺初代住職権大僧正日序上人は、大正五年十月三十一日、

ご尊父長谷川仲助氏、ご母堂よ祢姉の次男として千葉県にてご誕生されました。後、ご家族で東京へ移住されました。

幼少の頃より仲良しで、薫化会仲間であった小樽・信受寺の内藤日靖上人、仙台・妙護寺の近藤日志上人方々と入寺得度、後の佛立第八世講有日飲上人よりご剃髪をうけられました。

戦時中は、満州開拓団に憧れをもち、乗馬の練習等に励まれ、意気揚々とその時を

待っておられました。終戦をむかえました。

戦後まもない、昭和廿二年十一月に、師匠である、後の佛立第十五世講有日晨上人のご下命により、三十二歳の御時、八王子に赴任されました。

八王子は、昭和廿年八月一日に米軍による空襲の大爆撃をうけ、全市が、焼の原になっておりました。

八王子駅頭に立たれた日序上人は、焼の原を見て、愕然とされたそうです。

赴任地は、八王子市本町九十二番地（現在のいちようホールの隣接）で、親会場とは名ばかりで、本堂と居住域が一緒でしたので、朝参詣が始まると本堂になり、朝参詣が終ると居住域になるという、民家を道場としておりました。

金丸御本尊は、日飲上人のご染筆で昭和十年と刻字されております。当時のご信者数は数十戸。昭和廿三年一月に「大正山・清流寺」と寺号公称されました。

昭和廿六年に現在地、子安町一三九番地に移転し、本堂が建立され、庫裡、教務室も併設されました。

この現在地は、有力なご信者、森木直光氏のご有志で、地域の住民からは「子安の森」として憩いの場であり、約五百五十坪の敷地内には池もあり樺の大木が十一本、近くには「清水」も湧いておりました。

昭和廿七年高祖大士立教開宗七百年教化運動が展開されて、日序上人は、朝参詣後、直ちにご乗台にお坐りになり終日口唱を実施されたのです。

その御経力で、一千戸以上の教化を達成し、当時の第五弘通区で一位の成績を上げ、宗門でも全国第三位の成績により、表彰されました。

当時の受け持ち教務は、後の山本堯信師、安田堯啓師、加藤堯清師（後の日流上人）の三師でした。

昭和廿八年頃より、大本堂建立を発願し、会議を重ねた結果、甲府市の綿問屋、二階建て総構造りの家屋を購入することと決定し、建て物を解体し、夜間を利用して、甲州街道を何回も往復することに、見事な本堂を完成させました。

境内地拡張により、池を埋設、当時、御殿峠改修工事に伴う残土を、ダンプカーで搬入、教講一体となり、ダンプカーからの残土をモッコかっぎで池を埋めました。

日序上人は、昭和廿年に文能昇晋（上座講師にご昇晋）又、廿八年十二月には、青梅市師岡に「青梅別院」を建立、入佛も行われました。

昭和廿四年十一月廿三日開筵式を挙行し、全国から約数千名の参詣者がありました。

この開筵式を迎えるに当っては、朝参詣を五時間実施され、ご弘通の教戦も破竹の勢いで進展していきました。

昭和廿七年、日序上人は、千草日悟弘通局長の下、弘通部長を拝命し、全国の各弘通区へ、テキスト持参による「ご弘通教室」を展開されたのです。

この頃、日序上人は、京都のご出張の際には、東京駅より、寝台特急列車を利用され、東京駅を廿二時三十分発で京都着は、翌朝七時頃、又京都からは、廿二時発で、東京駅には翌朝七時頃到着というご活躍でありました。

昭和廿八年は、教務局長で若手教務養成の為に滋賀県比羅山に於て、「錬成道場」を実施、この折に「青年教務会」が結成されたのです。

この錬成道場は、その後、数回同所にて開催されました。

昭和廿八年には、多摩川の河川敷約三千坪を購入し、羽村別院を設立し、青梅別院から羽村別院へ移行されました。別院の建物は、本堂、事務所に、青少年育成の為に錬成道場用のバンガローを併設し、当時は、弘通区の青年会や、ボーイ・スカウト等の訓練場として多に活用されました。

又、日序上人は、早くから青少年の育成に力を注がれ、御自ら、団委員取得の為の研修を受けられ、口分田剛氏と共に尽力されました。

昭和廿八年九月廿八日に、ボーイ・スカウト八王子第一団の結成をみたのです。清流寺の境内地には「ボーイ・スカウト八王子発祥の地」の石碑も建てられています。

## 六月 朝参詣強調週間

六月二日〜六日迄

三日は祈願助行口唱会

六月の朝参詣強調週間は、三日に、祈願口唱会が実施されることにより、二日、四日、五日、六日の四日間行なわれます。

六月二日(日) 元八王子教区

四日(火) 八王子西教区

五日(水) 八王子東教区

六日(木) 八王子南北教区

右の四日間、各教区の教化誓願達成の為の口唱会です。一人でも多くお参詣して教化必成をめざしましょう。